

ご案内

第3回 医療危機を考える公開懇談会

医療に関わるさまざまな立場の皆様に、標記についてご案内をさせていただきます。

周知の通り、医療をめぐる環境はたいへん厳しくなっています。

「お産ができない」「時間がくると次の入院先を探さなければならない」「まちの有床診療所が激減している」「リハビリが日数で制限されている」・・・今回は、現場が直面している医療の矛盾の事例を、いくつか取り上げて議論することとしました。

医療従事者や議員、それだけでなく多様な立場の市民が席を同じくして考える懇談会です。自治体病院を民営化してよいのか？と最初の議論が始まりました。地方議員の全国ネットが、各地で深刻になっている有床診療所の課題を投げかけました。裏面に簡単な経過を書かせていただきましたが、この危機を打開したいと私たちはこの懇談会を始めました。

今回は、以下の日程で行います。医療を提供する側で、あるいは受ける側で苦勞されている皆さん、日頃から医療のありように問題意識をお持ちの皆さん、どうぞ奮ってご参加ください。

日 時 5月15日（土） 午後 1時30分より

場 所 横浜市職能開発総合センター4F 大会議室（別紙に詳細地図）

テーマ 「これでいいのか日本の医療」 **資料代** 500円

2010年4月

医療危機を考える懇談会 よびかけ人

池川 明（池川クリニック院長 産科医）

日下 景子（神奈川県議会議員）

澤田石 順（鶴巻温泉病院リハビリ棟勤務医）

鈴木 登（医療問題研究会）

原田 章弘（横須賀市議会議員）

連絡先 事務局

依岡桂美

TEL 090-9698-1443

e-メール fzp05704@ybb.ne.jp

「医療危機を考える懇談会」の経過

① 最初の呼びかけ

2008 年 8 月 22 日、医師など医療技術者、地方議員、労働組合関係者、市民団体、元国会議員などが集まって最初の懇談会を開催した。その呼びかけ文のはじめは以下の通り。

「ここ数年、財政難、医療費の増大などを口実に、世界に誇れる日本の医療制度が崩されようとしています。

医療費の自己負担増、健康保険料の値上げ、後期高齢者医療制度の導入、経営効率優先による医療環境の悪化、公立病院の民営化・・・、医療を受ける側も提供する側も、まともな医療の授受が危機にさらされ、苦しんでいます。

この懇談会は、このような医療にかかわるさまざまな立場の皆さんや、地方議員やその他医療をめぐる問題意識をお持ちの皆さんにお集まりいただきたいと思います。・・・」

② こうして懇談会を開始し、秋には参加者も増えて、以後 2 回の公開の懇談会を行った。

第 1 回 日時：2008 年 12 月 14 日(日)15:00～ 場所：神奈川県民センターホール

問題提起 澤田石 順（鶴巻温泉病院医師・リハビリ日数制限訴訟中）

「医療破壊は厚生省による棄民政策の結果だ」

鈴木 登（医療問題研究会・公立病院勤務、労組役員）

「市民、労組、医師は共同して医療危機を食い止めよう」

福士 博美（横浜市退職者・元労組役員）

「横浜市南部地域の医療状況について」

日下 景子（神奈川県議会議員）

「今まで関わったお産と助産院、周産期ネットワーク問題等について議員の立場から」

濱木 珠恵（都立墨東病院医師・内科医長）「救急医療の現場から」

第 2 回 日時：2009 年 5 月 23 日(土)13:30～ 場所：神奈川県地域労働文化会館

テーマ 「公立病院が赤字で何故いけない！？」

問題提起 池川 明（池川クリニック院長・産科医）

報告 森田 洋郎（横須賀市職労）

「指定管理者制度への移行と闘っている横須賀市民病院から」

田中 智也（三重県職労）

「県立病院の存続を求めて県民運動を闘っている三重県から」

司会 原田 章弘（横須賀市議会議員）

懇談会のおおむねの一致点は、「財政、経営最優先から医療優先へ」であり、伝えられている「国民総医療費 30 兆円は高い」などとする見方に疑問を抱き、医療をめぐる正しい情報を掴み広めることが迫られている、などである。2 ヶ月に 1 度程度の打ち合わせを続けながら、今回第 3 回目の公開懇談会を開催するに至った。
